

3. 流域治水に関する取組事例の共有

京都府
(京都府域)

流域治水に係るリーフレットの作成

- ◆立命館大学と連携し、一般の方向けの流域治水に関するリーフレットを作成。
- ◆配布についてHPで周知するとともに、府主催のイベントなどで配布し、流域治水の自分事化を促すツールとして活用。

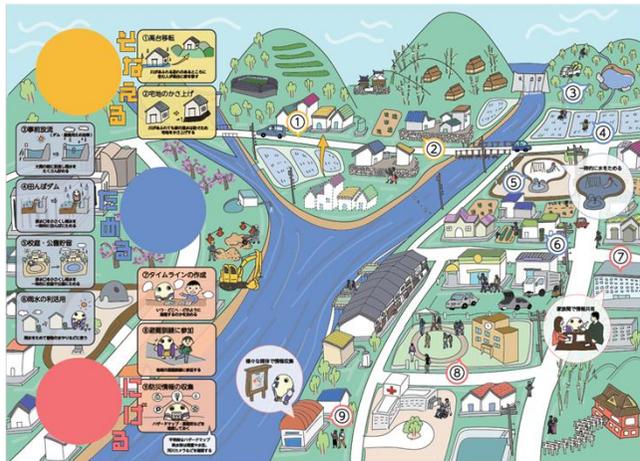


図-1 リーフレット(上:外側、下:内側)

- 立命館大学 建築光環境デザイン・設備技術研究室と連携。
- 関係者へのアンケート調査により、効果的で親近感があり、かつ受け入れやすいリーフレットの形状や表現を検討し、その結果をもとに流域治水の啓発資料を作成。

【特徴】

- ・アンケート結果を踏まえ、以下のとおり設定
形状: 四角 ベースの色: 緑 フォント: 新丸ゴシック、Bold
- ・誘目性を高めるために巻三折した際に中のデザインが見える窓を設けた。
- ・実在する施設、観光地をイラストに盛り込み京都らしさを表現。



京都市
(京都府域)

浸水対策事業（烏丸丸太町幹線）

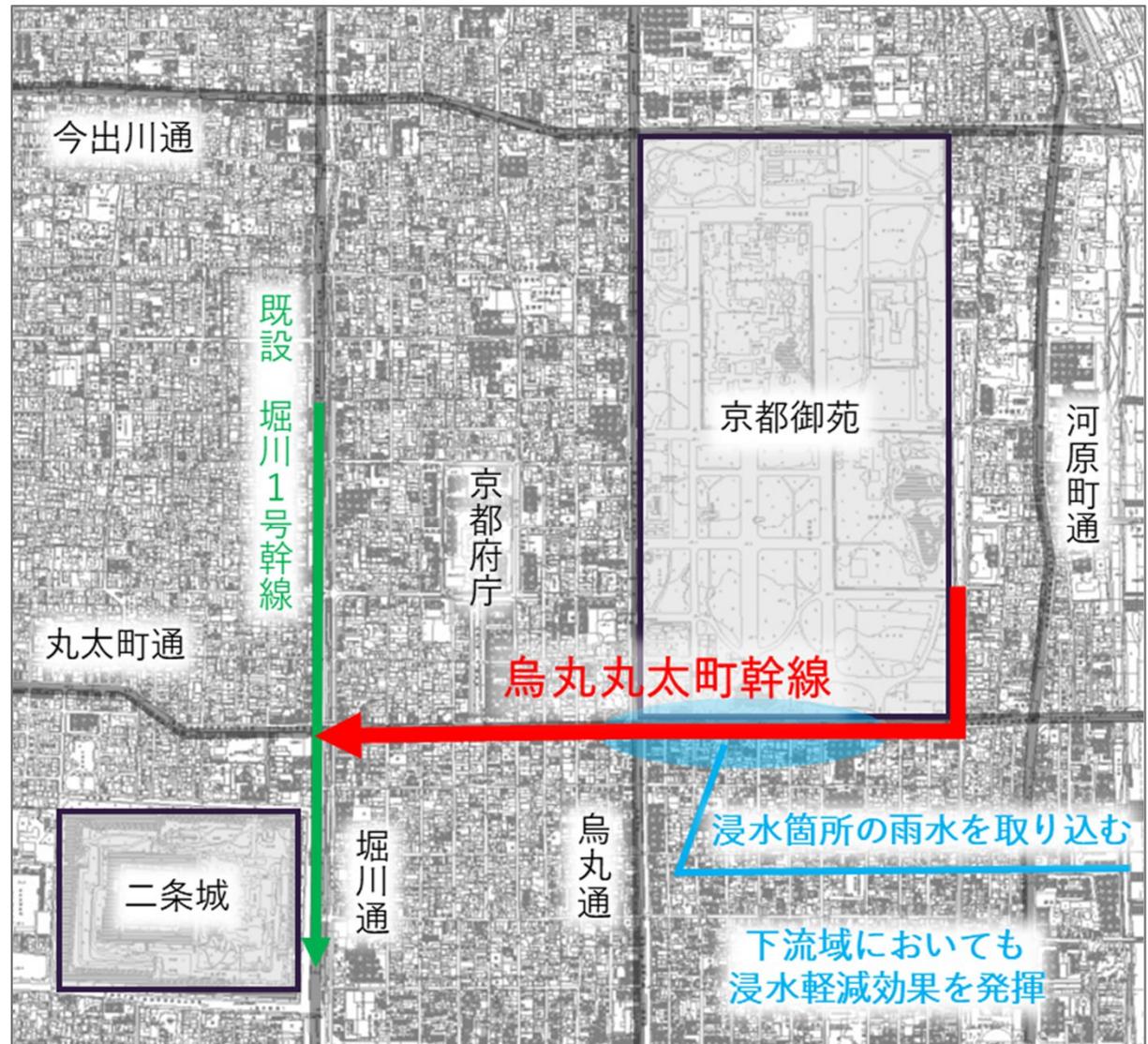
市内中心部の浸水対策として、雨水を「ためる」機能を備えた雨水幹線を整備

概要

口径：2,400 mm
延長：1,700 m
貯留量：7,700 m³
事業期間：令和2～7年度
（令和7年11月供用開始）
対象降雨：1時間 62 mm
（10年確率降雨）



幹線内部の写真



幹線整備位置図

浸水対策事業（烏丸丸太町幹線）

令和7年8月に部分供用を開始し、8月25日に発生した京都地方気象台の観測史上最大の大雨（1時間に102ミリ）において、浸水被害の軽減効果を発揮した。

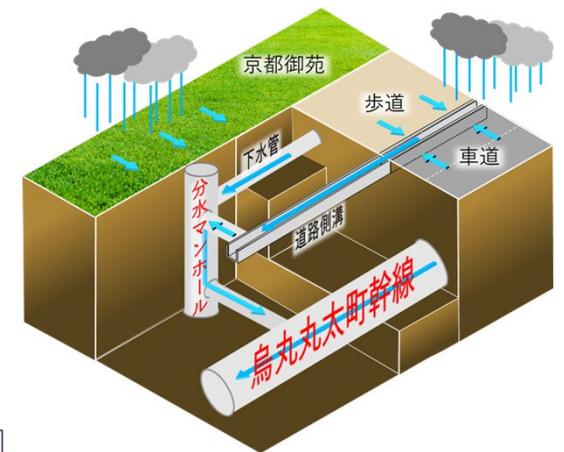
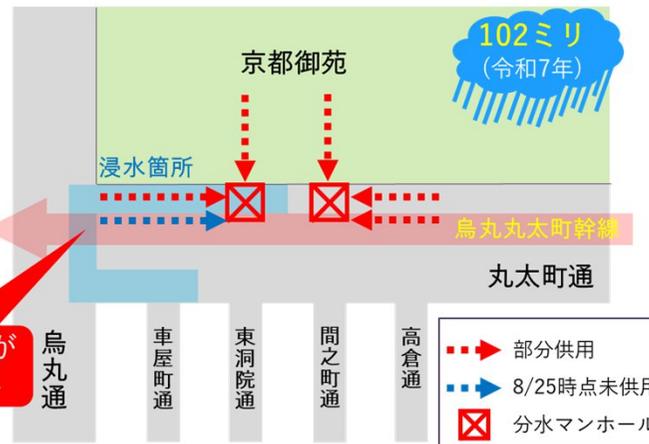
整備前（R4年7月）



部分供用後（R7年8月）



全面供用
(R7年11月)



烏丸丸太町幹線内への雨水取込みイメージ

久御山町
(京都府域)

【久御山町】まるごとまちごとハザードマップ

■取組内容

毎年、自治会に対して設置希望を募り、希望のあった自治会を中心にまるごとまちごとハザードマップの設置箇所を選定している。

■設置状況

＜令和7年度設置箇所＞

6自治会（リーヴァ淀、中島、東一口、
佐山サンハイツ、栄3・4丁目、清水）

■今後について

未設置の自治会や自治会が組織されていないエリア等への設置に向けた活動を継続的に実施していく。



東一口自治会付近の電柱

【久御山町】 淀川水系流域治水プロジェクト 完了事業概要

【事業名】 佐山排水機場施設更新事業

【経緯】

佐山排水区の最下流に位置する排水機場が、昭和50年度（1975年度）に完成後45年以上が経過し老朽化が進んでいることから、令和元年度に作成したストックマネジメント計画に基づき更新事業を実施。（京都府管理の1級河川古川を介して宇治川に排水している。）

【事業計画】

- ・ポンプ2基（1台あたり 揚水量 $V=1.43\text{m}^3/\text{s}$ ）

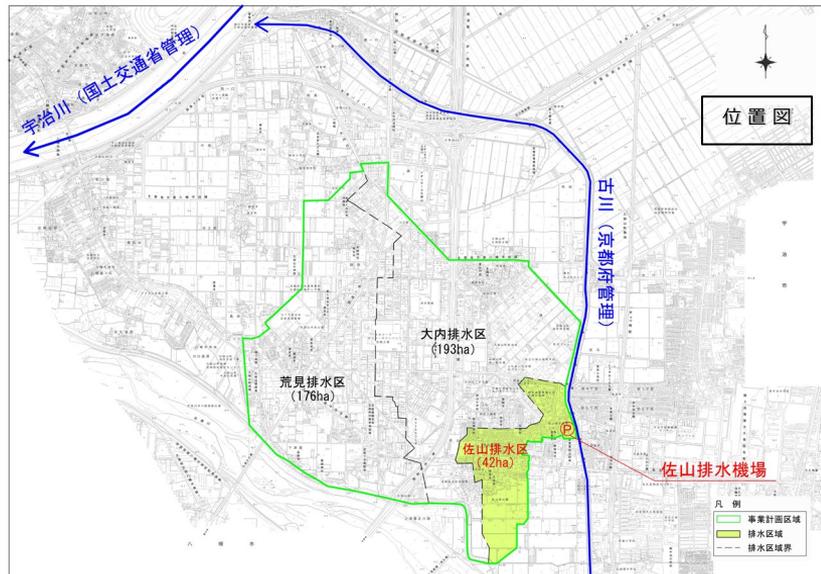
【事業内容】

- ・詳細設計（令和2年度）
 - ・第1期工事（令和3, 4年度）
事業費：354,811,600円
 - ・第2期工事（令和5, 6年度）
事業費：332,200,000円
- 計：687,011,600円

機械設備工事

φ2,500スクルーポンプ N=2台、ディーゼルエンジン
N=2台、減速機 N=2台、消音機 N=2台 他

電気設備工事、建築工事、建築電気工事 一式



施工状況



施工状況

**環境省 近畿地方環境事務所
(大阪府域・京都府域)**

- 気候温暖化に伴う局地的豪雨の増加による影響を踏まえ、その（人的・物的）被害を軽減するために策定した広域アクションプランに基づく適応策の推進を図る。関係者が参加するFU*分科会を開催・運営する。
- 滋賀県、京都府及び関係市町村、大阪府、和歌山県、京都市、大阪市、地域適応センター（兵庫県他）、等（環境部局に加え、一部の防災・危機管理系部局も参加。継続して参加募集中。）（※FU:フォローアップ）

事業メニューの内容、イメージ

< 推進体制 >



事業メニューの実施事例

ゲリラ豪雨対策FU分科会の設置

テーマ：局地的大雨による市街地水災リスク増大への適応

気候変動の影響により、局地的豪雨の頻度、強度が増してきており、将来的にはさらに激甚化することが予想されています。また、局地的豪雨による災害の頻度・程度が増しています。

近畿地域では、XRAINによる降雨の立体観測が高頻度で行われている優位性があります。

（令和7年度の事業活動内容）

- ・分科会：2月9日（金）開催予定
- ・中小規模施設のゲリラ豪雨対策事例集・ガイドライン策定：神戸須磨シーワールドにおける対策のヒアリング（12月4日）
- ・中学校における実証事業のビデオ教材：学校に配布（9月上旬）、意見を収集
対象：南宇治中学校、東宇治中学校
- ・人と防災未来センターとの連携事業（ゲリラ豪雨×夏休み防災未来学校2025WS「ゲリラ豪雨マスターになろう！」）：7月19日、20日、計4回実施

事業メニューの効果

広域アクションプラン（R4年度策定）に含まれる適応アクション

広域連携での適切性、実行可能性・費用対効果の検証を踏まえ、広域アクションプランを策定

a.施設のゲリラ豪雨対策の実施状況の整理と対策推進

主なターゲット：中小規模施設の施設管理者、公園管理者等（野外施設の管理者も含む）
アクションプラン：既存施設等のゲリラ豪雨対策状況のとりまとめと情報共有。中小規模施設等におけるゲリラ豪雨対策の推進。

b.ゲリラ豪雨関連情報の有効活用検討

主なターゲット：地方公共団体（環境系部局、危機管理部局、防災系部局、道路系部）関係者、指定施設管理者、工事業者、教職員・生徒、一般住民
アクションプラン：豪雨関連情報のとりまとめ結果や利用方法に関するマニュアル作成と有効活用促進

c.ゲリラ豪雨対策に関する啓発・教育

主なターゲット：地方公共団体（環境系部局、危機管理部局）、地域気候変動適応センター、各府県地球温暖化防止活動推進センター、教職員・生徒、一般市民
アクションプラン：学校教育現場における啓発授業の実施や、啓発パンフレットの作成・配布



【令和7年度予算 480百万円（700百万円）】

気候変動影響への適応取組を強化し、安全・安心で持続可能な社会の構築を目指します。

1. 事業目的

気候変動の影響は国内外で既に現れており、さらに深刻化する可能性がある。そのためパリ協定等により、各国とも気候変動による被害の防止・軽減を図る適応の取組が求められている。日本では、平成30年6月に気候変動適応法が成立し、適応策の推進は、骨太の方針、クリーンエネルギー戦略等にも盛り込まれている政府の重要課題である。これらを踏まえ、気候変動適応法に基づき、適応策を推進することで、健康影響の防止による生活の安定、農林水産業などの健全な発展、国土の強靱化などを総合的に目指す。

2. 事業内容

（1）気候変動影響評価・気候変動適応計画の進捗管理

気候変動適応法に基づく気候変動影響評価・気候変動適応計画の進捗把握を効果的・効率的に実行する。また、計画の改定に向け、戦略を検討する。

（2）将来への適応策の強化

気候変動を踏まえて、将来の台風に関する影響を評価し、激甚化する気象災害への対策の充実を図る。また、気温上昇が1.5℃を超える可能性があることから、その場合の適応策を検討し、それらを分かりやすく情報発信する。

（3）地方自治体、民間企業等の適応策の支援

地域特性を加味した気候変動影響評価手法の検討などにより、地域における適応を推進する。また、サプライチェーンを含めた気候変動影響評価の手引きの作成などにより、民間企業における適応を促進する。

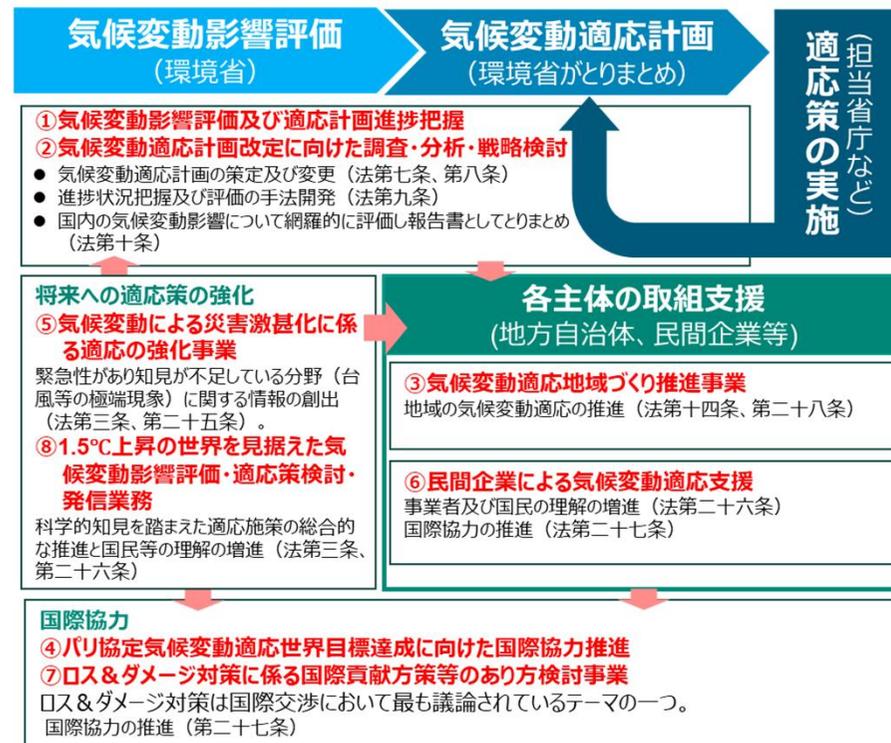
（4）適応策の国際協力

気候変動に脆弱な開発途上国において、能力強化や官民連携を通じて国際協力を推進する。また、気候変動の悪影響に伴うロス&ダメージに関する国際貢献方策等を検討し、我が国の民間セクターによる取組を後押しする。

3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業
- 請負先 民間事業者・団体等
- 実施期間 平成18年度～

4. 事業イメージ



取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水難事故の啓蒙活動 地域 個人 企業・団体			
	◎連携活動 地域 個人			
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	● 人と防災未来センターとの連携事業 市民向け「ゲリラ豪雨マスターになろう！」WSの開催（7/19、7/20、計4回） 市民向けワークショップの実施		
	◎教育活動 地域 個人		● 対象中学校へのビデオ教材（初版）の配布 中学校におけるゲリラ豪雨情報の活用実証授業のビデオ教材化	
	◎訓練活動 地域 個人			
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体			
	◎水災害対策の支援 個人		● 神戸須磨シーワールドのヒアリング（12/4） 中小規模施設におけるゲリラ豪雨対策状況のとりまとめと、とりまとめ資料（事例集：ガイドライン）の共有／対策推進	
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体			

淀川水系流域治水協議会（環境省）

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

教育活動

- 中学校におけるゲリラ豪雨情報の活用実証授業のビデオ教材化
- ・初版ビデオ教材の限定公開中
<https://youtu.be/e1aknE1evGQ>
- ・初版ビデオ教材を中学校に配布
対象：南宇治中学校、東宇治中学校



ワークショップの実施

- 人と防災未来センターとの連携
- 市民(小学生)向けのワークショップ:「ゲリラ豪雨マスターになろう!」を実施(7/19、7/20)
- ゲームをしながら、ゲリラ豪雨対策の重要性を学ぶ



事例集・ガイドライン策定

- 中小規模施設におけるゲリラ豪雨対策状況のヒアリング
- ・神戸須磨シーワールド訪問(12/4)
- ヒアリング結果のとりまとめ資料(事例集:ガイドライン)の共有/対策推進

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

国土交通省
淀川河川事務所
(大阪府域・京都府域)

○ 阪神淡路大震災からの復興で舟運が活躍する等、舟運復活の機運が高まる中、淀川大堰閘門の整備を令和3年度から推進し、令和6年に船の航行が可能となった。令和7年3月にて、淀川大堰閘門の名称「淀川ゲートウェイ」を発表し、運用を開始。この整備により、災害時の物資輸送等をはじめ、平時には観光や公共工事でも舟運の活用が見込まれる。

○淀川クルーズ OSAKA BAY 新航路 OPEN FESTIVALを開催

2025大阪・関西万博開幕1ヶ月前となる3月16日に、淀川大堰閘門の通行開始、十三船着場の完成を報告。淀川の新たな航路を観光船が航行した。

- 日 時：令和7年3月16日(日) 10時30分～11時30分
- 主 催：淀川舟運活性化協議会
- 出席者：近畿地方整備局長、近畿運輸局長、大阪府知事、京都府知事、沿川市町首長（大阪市、高槻市、守口市、枚方市、寝屋川市、摂津市、島本町、京都市、宇治市、八幡市、久御山町）他、関係団体・企業等



淀川大堰閘門の名称を披露



十三船着場の利用開始を記念したテープカット

○万博会場来場者輸送社会実験を実施

2025大阪・関西万博開幕中に淀川舟運活性化協議会の取組として、万博会場への来場者輸送の課題・効果検証を目的とした社会実験を実施した。

- 日 時：【十三発】令和7年8月23日・9月4日・9月20日（各30名募集）
【十三発】10時20分～11時30分（9/4は海上強風警報発令により中止）
【毛馬発】10月5日（日）（25名募集）9時20分～11時30分
- 概 要：船上で武庫川女子大学三宅先生（9/20のみ）他日は職員が淀川の歴史・見所等を解説した。十三発は3日間で4,950名、毛馬発は1日のみで438名と多数のご応募をいただき興味・関心の高さが伺えた。

8/23・9/20 十三～万博会場

10/5 毛馬～万博会場



十三船着場を出航



毛馬船着場を出航し、淀川ゲートウェイを通航

○京都（伏見）～大阪（十三）間の社会実験を実施

京都府主催「淀川舟運フェスティバル」と連携し、京都府が運航した京都(伏見)～背割堤(八幡)間の観光船運航を引継ぎ、背割堤(八幡)～淀川ゲートウェイ～大阪(十三)の観光船運航社会実験を実施。

- 日 時：令和7年5月11日(日) 13時30分～18時00分
- 主 催：京都府（伏見～背割堤）、淀川河川事務所（背割堤～十三）
- 概 要：全体で221名が観光船に乗船※伏見～八幡間は2日間で167名、八幡～十三間は57名、船上で職員が淀川の歴史等を解説しました。



伏見船着場から出航する船



淀川ゲートウェイを通航中



十三船着場へ到着した船

○かわまちづくり計画の取組支援

国土交通省では、水辺を活かして地域の地域の賑わい創出を目指す取組を推進するため、「かわまちづくり」支援制度に基づき、市町村等が作成した計画の登録を行い、ハード・ソフト両面から支援を行っています。

淀川河川事務所では、淀川沿川一体となったかわまちづくりを推進すべく、令和7年10月時点で5地区の舟運を活用したかわまちづくり計画の支援を行っています。

- ・「淀川河川敷十三エリアかわまちづくり」R4.登録（大阪市淀川区）
- ・「淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり」R5.8登録（大阪府枚方市）
- ・「八幡市かわまちづくり」R5.8登録（京都府八幡市）
- ・「伏見地区かわまちづくり」R5.8登録（京都市伏見区）
- ・「宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり」R5.8登録変更

【各地区整備イメージパース】



枚方

八幡

伏見

宇治

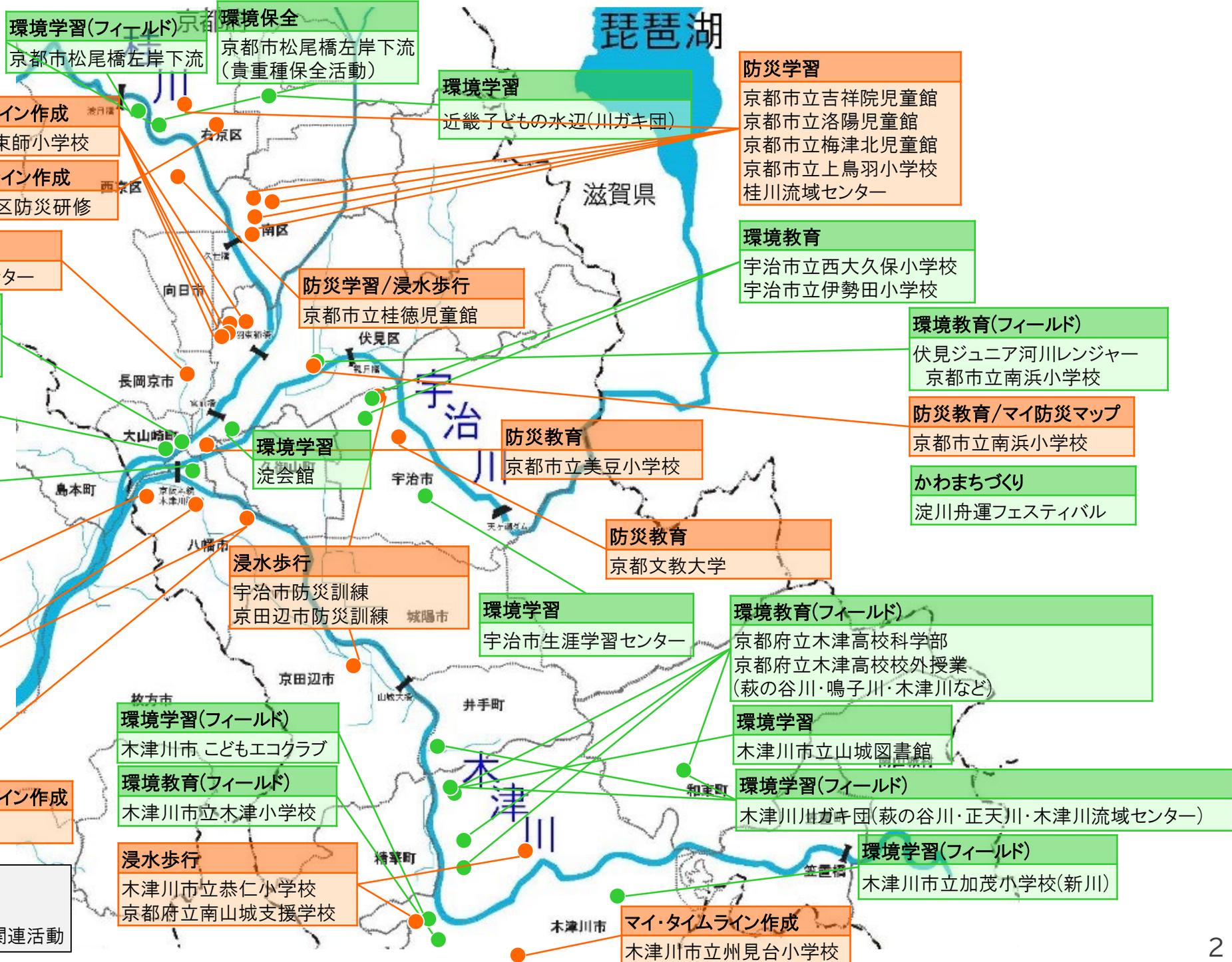


十三

河川レンジャー
(大阪府域・京都府域)

R7年度流域治水プロジェクト関連活動実績図 [R7.12とりまとめ]

京都府域



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

京都市右京区自主防災会向けの防災講座協力

右京区役所地域力推進室から依頼を受け防災研修会の講師として参加。地域ごとの水害リスクの解説やマイ・タイムラインの作成を通して、右京区27学区の自主防災会関係者へ水害・土砂災害に対する防災意識を高めた。



地域の水害リスクを解説



地域の方の疑問への対応



マイ・タイムラインの作成

八幡市内小学校での防災教育

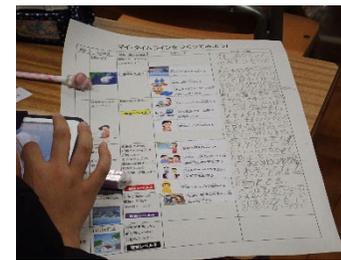
八幡市内小学校の立地条件や目的に合わせて最適化した防災教育を実施。過去の水害や排水機場のポンプ稼働能力を伝え、水害・防災の意識を高めた。マイ・タイムライン作成を通じた早期避難の啓発や流域治水の概念も伝えた。



学校に合わせたプログラムを構成



児童への授業風景



児童向けマイ・タイムライン

自然環境の保全・復元などの自然再生

桂川ワンドでの調査・防除活動

地域団体等と連携し、外来種の防除や貴重植物の保全活動を定期的実施。桂川の河道内に繁茂した竹林では、河道維持・ヒメボタルの生息地保全のため、伐採整備活動を実施し、治水・防災対策・生物保護への理解を深めている。



外来種の防除活動



ワンドの状況確認



河道内竹林の伐採活動

市民とともに川づくりを目指す拠点として活動を展開。

自然環境が有する多様な機能活用の取組

木津川市における環境教育活動

木津川小学校・木津高校などと連携し、木津川の持つ多様な環境を活かした様々な体験を提供。環境学習等のソフト施策に関する活動として取り組みを行い木津川を対象とした総合的な学習に貢献した。



木津川川遊び



夜の昆虫観察会



図書館での生体展示

木津川の持つ多様な環境を活用し様々な体験を提供した。